



新館長 着任のごあいさつ



秋田大学附属図書館長 清水宏明

4月から附属図書館長を拝命しました医学系研究科(脳神経外科)の清水です。関係の皆さまにはどうぞよろしくお願いいたします。

私自身は子供のころは毎週学校の図書館から本を借りたりしていましたが、仕事を始めてからは図書館から足が遠のいていました。ただその中でも、頻々と大学図書館を利用した一時期があります。忙しい脳外科臨床を離れて、研究(実験的脳虚血)に専念していた1990年前後の2年半、毎週一日を図書館にこもって英語文献を探し、読む時間にしていました。当時は目の前の仕事の必要に迫られてのことで、実際、役に立ちました。しかし、本当に貴重だったのは、この時の英語文献の精読・多読が、一生役立つ英語文献や論文の読み方・書き方の基礎になったことと思っています。学生・大学院生や若手研究者の方には、本図書館を通じて、一生の財産を作っただけであれば願っております。

この四半世紀、電子化が進み、一般図書館でもその機能や役割は本当に大きくかわっています。大学の附属図書館は、それにもまして、電子化による大量の情報とその関連システムや企業の大波に揺られているように思います。そうした時期にこのような機会をいただき、大きな責任を感じるとともに、できるだけ知識と経験を得たいと楽しみにもしています。附属図書館の頼れるスタッフの皆さんの協力をいただいて、より利用しやすい身近な図書館になるよう貢献したいと思っています。

もう20年も前になりますが、古代最大であったとされるアレクサンドリア図書館の跡地に、約2000年ぶりに建設された新アレクサンドリア図書館を訪れる機会がありました。その特徴的で重厚な外観も印象的でしたが、何より、広い開放的な内部に、立体的に並ぶ書架の迫力が記憶にあります。

本や記録の本当の価値を実感したり、興味を抱いたりするのは、やはり現物に優るものはないように感じます。一方で、多くの情報を効率的に集め、整理し、保存するには電子的利用は必須です。両者をつなぐ要が図書館のようにも思います。普段はインターネットで文献集めをしつつ、時には図書館に足を運んで本を眺め、手にとってみていただければと思います。きっと、日常のちょっとしたスパイスになるものと思います。

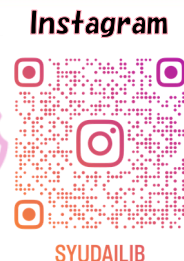
p2には新医学部分館長着任のごあいさつを掲載しています。

Contents

巻頭言 新館長着任のごあいさつ	1
新医学部分館長着任のごあいさつ / データベース関連	2
新任教職員の皆様へ	3
図書館からのお知らせ / 編集後記	4



新入生
特設ページ



Instagram

SYUDAILIB

新医学部分館長 着任のごあいさつ

医学文献をめぐる雑感 ～ オープンアクセス狂騒曲

秋田大学附属図書館 医学部分館長 大森 泰文



この度、医学分館長を拝命した大森です。分館長は兼任という立場ではありませんが、医学文献を取り巻く状況の変化が著しい昨今、これからの医学図書館の在り方を模索し、可能な限りそれに近づけるよう微力を尽くす所存です。現在、教員や大学院生が医学図書館で文献を調べたりコピーしたりすることは、ほとんどありません。もちろんそれは、大学図書館がその仕事として多くの雑誌と契約しているが故に(とは言っても、費用を分担しているのは各講座ですが)、相当数の雑誌の論文をオフィスや自宅でダウンロードできるからです。さらに当初はインディーズだけだったオープンアクセス(OA)雑誌がメジャーのセカンダリーラインにも広がっていますので、そもそも契約すら不要な雑誌が増加しています。各出版社のプライマリーラインがOAになり、図書館がライセンスを購入する必要もなくなる日を待ちたいところですが、実際のところ経費負担は増加し続けています。円安を考慮に入れても解せないところです。

私が秋田大学に着任する以前、1998年の夏にCold Spring Harbor研究所でがん関連の会議があり、私も発表の機会を得ました。合宿形式の会議で、ある朝テラスで朝食を取っておりますと、髭のおっさんがやってきて、ご一緒していいかと訊いてきたのです。ネームプレートを見ると当時NIHの所長をしていたHarold Varmusではありませんか。ノーベル賞受賞者との朝食ですから、今ならスマホで2ショットでも撮るところですが、そこは品よく自己紹介にとどめ、素知らぬ顔をして世間話をしておりました。食べ終わったところで、彼から質問があり、なんでも、世界の誰もが無料で読むことのできるネット上のみの学術雑誌を計画しているとのこと。「若い研究者としてこの計画をどう思うか?」というものでした。私としては、「それは大歓迎で称賛したいが、OAにとどまらず、ネット上で不特定多数がピアレビューできるオープンレビュー(OR)があると、さらに良いね。」みたいなことを答え、彼も「それが理想だね」と同意していたのですが…。かくして3年後、2001年にPublic Library of Science (PLoS)が設立され、2003年には世界初のOA雑誌PLOS Biologyが創刊されたのです。あの時Varmusが言っていたのはこのことだったのかと後で気付いたわけですが、「これは経費節減になる」と無邪気に期待していた私としては、掲載料の高さを知り愕然としました。結局、OA化の恩恵を受けたのは、論文を読むだけの研究者、例えば特許を第一に考える産業部門の研究者等であって、論文を書くことを業とするアカデミアの研究者には経済的恩恵はわずかでした。それに、PLoSは今でもインディーズですが、後発のBMC等はみんなメジャーに買収されているのが現状です。

PLoSはORを実現できませんでしたが、近年、各種preprint serverが元気です。多くはOR機能も提供していますが、秋田大学はpreprintに対して評価を付けてくれません。学術出版の潮流に素早く柔軟に対応していく必要があると痛感しています。

データベース関連 ぜひ研究活動にご活用ください。

データベース

無料トライアルのお知らせ



ProQuest Health & Medical Collection with MEDLINE

トライアル期間：2024年4月22日(月)～2024年5月31日(金)

MEDLINE掲載誌を中心とする医学系のタイトルを多数収録する全文データベースです。

<https://www.proquest.com/>

朝日新聞クロスサーチ
について



①4月から以下のオプションコンテンツが利用可能になりました。

- ◆縮刷版(明治・大正、昭和戦前) ◆人物データベース
- ◆歴史写真アーカイブ ◆アサヒグラフ ◆英文ニュース

②同時アクセス数を拡大します。

- ◆2024年4月1日(月)～2024年9月30日(月) 同時アクセス数1→2
- ◆2024年10月1日(火)～2024年10月14日(月) 同時アクセス数1→50

<https://xsearch.asahi.com/>


新任教職員の皆様へ

4月から秋田大学で勤務されている教職員のみなさん、ようこそ秋田大学へ！
これからの研究活動にお役立ていただきたい附属図書館のサービスをご案内します。


◆ 図書館の各種カードと申請方法について

附属図書館では、利用の際必須となるカードや、研究において便利なカードがいくつかあります。


マークについて




←手形地区中央図書館
で申請・利用可能





←本道地区医学図書館
で申請・利用可能

 **利用者カード**





- ◆入館や図書・雑誌の貸出で必須となるカード
- ◆My Libraryの利用に必須(学外文献複写・図書の取り寄せ、研究費での図書購入依頼等)
- ◆発行したカードは中央・医学両館で利用可能！

 **中央図書館
公費コピーカード**



図書館所蔵資料の公費によるコピーができる
※コピーカードの受付・発行は中央図書館のみ
(医学図書館を含む本道地区で利用可能な公費コピーカードは、図書館で管理していません。担当部署にお問い合わせください。)

 **特別利用カード**



夜間等の閉館中、館内資料閲覧のため入館する際、玄関の自動ドアを解錠するカードキー
※即時発行はできません。申請後数日～1週間程度お時間をいただきます。中央図書館は運用休止中です(再開未定)。
※閉館中は、資料の館外持ち出し等、一部のサービスは利用できません。
※医学図書館の特別利用時は、入館ゲート通行のため「利用者カード」も必要です。

各種カードの申請は、所属する地区の図書館サービスデスクで承ります！

手形地区…中央図書館
本道地区…医学図書館



◆ 附属図書館各担当の問い合わせ先

	中央図書館	医学図書館
カード類の発行、資料の貸出/返却、 広報や利用案内について 等	利用サービス担当 内線:2279 メール:libriyo@	医学部分館担当 内線:6052 メール:ibun@
学外文献の取寄せについて	利用サービス担当 内線:2279 メール:libriyo@	医学部分館担当 内線:6219 メール:mybun@
図書、視聴覚資料、電子ブックの購入・ 寄贈について	学術情報資源担当(図書) 内線:2274 メール:libtos@	医学部分館担当 内線:6052 メール:ibun@
雑誌、雑誌製本、電子ジャーナル、デー タベース、学術情報リポジトリについて	学術情報資源担当(雑誌) 内線:2281 メール:libzas@	医学部分館担当 内線:6052 メール:ibun@

※外線電話は頭に018-889(中央) / 018-884(医学)を、メールは@の後ろに「jimu.akita-u.ac.jp」を付けてください。



クマ目撃情報の出沒 ご注意ください！

手形キャンパス付近や本道キャンパス付近で、クマの目撃情報が相次いでいます。秋田県内では、人間に積極的に近づいてきたクマによる事故も発生しており、5月現在ツキノワグマ出沒警報も発令されています。クマの目撃情報があった場合、図書館の開館時間や開館予定が変更となる場合もあります。最新情報は、図書館HPやa-net、AU-CIS、附属図書館Instagram等をご確認ください。

図書館からのお知らせ

中央図書館「イノベーションスペース」の運用を開始しました

学生のみなさんの声にお応えしました

実習用PCの更新に伴い、中央図書館1階に設置していた「PCコーナー」の運用を終了しました。PCを撤去して空いたスペースは、「イノベーションスペース」として運用を開始しています。

「イノベーションスペース」は、1階の他の閲覧スペース同様に可動式の机やホワイトボード等を自由に組み合わせて、話し合いやグループ学習に利用することができます。また、今後さらに整備を進め、授業のグループワークや学内の様々な活動にも利用できる空間へと進化する予定です。

※実習用PCは、引き続き2台設置しています(印刷機能は使用できません)。



研修室と同じように授業等での貸切利用も可能です！(要事前申込)
詳細は、附属図書館利用サービス担当までお問い合わせください。



中央図書館 施設利用ルール(延長)の変更について

学生のみなさんの声にお応えしました

中央図書館グループ学習室・学習個室を使用する際の延長ルールを、下記の通り変更しました。

【延長可能回数】1グループ最大1回まで → 制限なし※空いている施設がある場合に限る

【延長手続き受付時間】利用終了時刻15分前から → 利用終了時刻30分前から

延長を希望する際は、サービスデスクにお申し出ください。スタッフが延長処理を行います。

なお、混雑期は延長回数や最大時間に予告なく制限を設ける場合があります。

※医学図書館の施設利用ルールは異なる部分があります。詳しくは医学図書館へご確認ください。

本学 教職員等 著作寄贈図書

書名	著者名	著者記号
国語の自学自習術(脱偏差値時代の受験勉強術:4)	阿部昇(大学院教育学研究科)自著	375.8 A12

※発行時点で閲覧可能となっている資料を掲載しています。教員の皆様にご寄贈いただいた著作図書のうち、令和6年5月現在利用準備を進めているものについては、次号以降の本誌でご紹介いたします。

編集後記

今年度より新館長・新分館長をお迎えし、新体制の附属図書館となりました。イノベーションスペースの運用開始や各種電子リソースの充実をはじめ、来館・非来館の両面で活用できる図書館になるよう、職員一同努めてまいります。



▲手形キャンパス中央図書館 付近の桜(職員撮影 4月)

Library News しゅうと!

No. 28 令和6年 5月 21日 発行

編集・発行 ■ 秋田大学附属図書館

〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

中央図書館

医学図書館

TEL: 018-889-2279

TEL: 018-884-6052

FAX: 018-832-4917

FAX: 018-884-6252

MAIL: libriyo@jimu.akita-u.ac.jp

MAIL: ibun@jimu.akita-u.ac.jp